



# 環境リスクPress

2016年1月発行 / VOL.3

## アスベスト関連ニュース 2015年10月22日

### 石綿建材調査者：県内有資格1人のみ 東京五輪控え、重要性さらに高まる / 栃木

アスベスト(石綿)の有無を調べる公的資格「建築物石綿含有建材調査者」の取得者が徐々に増えているなか、(栃木)県内の有資格者は1人にとどまっている。石綿の見逃しは、深刻な健康被害のほか、建物所有者らに巨額の損失を招いた例がある。いる。

首都圏では2020年開催の東京五輪に向けた建物解体や新設で調査者がいっそう求められると予想され、識者は東京都などで来月開かれる講習への参加を呼びかけている。

石綿の見逃しでは、東京都の文京区立保育園の1999年の改修工事で石綿が飛散し、事後対策などで約1億円かかった。もし最初から調査と対策をしていれば費用は約42万円で済んだと報告された。

国交省は国庫補助の際に調査者の資格を要件化することを検討している。資格取得者は9月末現在475人。東日本では栃木県が1人、山形県が2人とどまっている。

※一部中略(参照:毎日新聞)

## 土壤汚染対策の基礎知識

### フェントン、バイオ…原位置対策技術の特徴

土壤汚染対策手法として、原位置浄化(その場所で浄化する方法)があります。その中でも多く利用されているのが、フェントン(化学分解)とバイオレメディエーション(微生物分解)です。

各技術の特徴をとらえた使用をすることで、コスト、工期のパフォーマンスを生み出せます！

技術	フェントン	バイオレメディエーション
概要	化学酸化剤を用いて、フェントン反応(酸化)を発生させ、対象物質(油、塩素系VOC)を浄化する技術	微生物等の働きを利用して汚染物質を分解し、土壤の環境汚染の浄化を図る技術
工期	比較的短い	比較的長い
価格	△～○	○～◎
写真		

## 最新トピックス

### 外壁の塗装材にもアスベストが 使用されている可能性があります！



最近相談が多いのが、外壁塗装のアスベスト調査です。

リシン吹き付け等、外壁仕上げ塗装材は平成18年に法的に製造・使用等が禁止されましたが、その時代に作られた外壁の解体に伴い調査・除去の依頼が増えています。

現状、塗装材の除去レベルは各諸官庁にて異なります。また、予め調査義務等を求められることがあるため、解体時には注意が必要です。

東京五輪の影響もあり関東では今後ますます開発計画が進むと考えられます。その際には外壁アスベストのリスクについても捉えて計画を立てられることをお勧めします。

